営農技術情報
畑作 No.4

令和 ４年 ７月 ２７日

十勝農業改良普及センター本所（TEL 67-2291）

http://www.tokachi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

小麦の収穫後の管理について

（１）緑肥作物のは種

緑肥のは種作業は、ほ場内に残った麦稈を分解促進させるためチョッパーで細断し、ロータリーなどで整地しブロードキャスターやドリルで、は種後鎮圧をします。

緑肥の効果を発揮させるため、適切な施肥と早期は種を実施し、生育量の確保に努めましょう（表１）。また、キタネグサレセンチュウ対策には、えん麦野生種が有効です。

緑肥のすき込みは分解を促進するため、チョッパー等で細断しプラウですき込みます。

表１　緑肥の種類と特徴

緑肥作物	時期		は種量	施肥量（kg/10a）			作付効果
	は種	すき込み	(kg/10a)	N	P_2O_5	K_2O	
えん麦	８/上～中	10/中～下	15～20	4～6	5～10	0～5	有機物補給、雑草抑制
えん麦野生種（ヘイオーツ等）	８/上～中	10/中～下	10～20	5	5	0～5	有機物補給、ｷﾀﾈｸﾞｻﾚｾﾝﾁｭｳ抑制、落葉病軽減
シロカラシ	８/上～下	10/中～下	２	5～8	5～10	0～7	有機物補給、易分解性窒素供給、麦稈のC/N比調整、景観形成
ひまわり	８/上～中	10/中～下	1.5～2.0	4～6	8～10	0～10	有機物補給、菌根菌効果、景観形成

（２）多年生雑草、異品種連作対策

シバムギ・レッドトップ・ギシギシなど多年生雑草が多い小麦畑が散見されます。特に、多年生イネ科雑草の除草剤処理は耕起前の時期が最適です。小麦収穫後、雑草が 15cm 以上に再生してから散布します。また、やむを得ず異なる品種等で小麦を連作する場合は、野良ばえによる混麦の危険性が懸念されます。麦稈を搬出しロータリーをかけ、こぼれ種子出芽後、除草剤による茎葉処理を行い、プラウで埋設して下さい。ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ系除草剤は種子馬鈴しょ周辺ほ場での使用を避ける。

表２　麦類の耕起前雑草茎葉散布除草剤例（各地域の防除ガイドを確認ください）

薬剤名	有効成分	使用時期	使用量(/10ａ)	回数
クサトリキング	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙｱﾐﾝ塩　41%	耕起前まで（雑草生育期草丈 30cm 以下）	250～500ml（水量 25～100L）	３回以内
タッチダウン iQ	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｶﾘｳﾑ塩 44.7%	耕起３日以前(雑草生育期)	500～750ml（水量 25～100L）	１回
ラウンドアップマックスロード	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｶﾘｳﾑ塩 48%	耕起前・雑草生育期	200～500ml（水量 25～100L）	３回以内

注１：展着剤は加用しない。

注２：散布後一定時間降雨のない日に散布する(剤によって１～６時間)。

注３：周辺の作物に薬液がかからないよう注意するとともに、ドリフト低減ノズル（ラウンドノズル等)の使用が望ましい。

注４：少水量散布の場合は、専用ノズルを使用する。

しっかり休息をとって、農作業事故を防ぎましょう！